

第2章

ウルグアイ

1. 概要

1.1) 一般事情

1. 面積 17.6万平方キロメートル(日本の約半分)
2. 人口 342万人(2014年 世銀)
3. 首都 モンテビデオ(Montevideo)
4. 民族 欧州系90%、欧州系と先住民の混血8%、アフリカ系2%
5. 言語 スペイン語
6. 宗教 キリスト教(カトリック)が多数。憲法で信仰の自由を保障。

1.2) 政治・経済

1. 政体 立憲共和制
2. 元首 タバレ・ラモン・バスケス・ロサス大統領
3. 議会 二院制(上院31、下院99)
4. 政府
 - (1) 副大統領 ラウル・フェルナンド・センディック・ロドリゲス
 - (2) 首相 首相職無し
 - (3) 外相 ロドルフォ・グスタボ・ニン・ノボア
5. 一人当たりGDP
16,350ドル(2014年、世銀)

1.3) 教育制度等

1. 担当行政機関 国家公立教育委員会(Administración Nacional de Educación Publica)
(高等教育は教育文化省が管轄)
2. 学校制度 6・3・3・(2~8)制 (大学は学部により就学年数が異なる)
3. 義務教育期間 幼稚園(4歳)から高校(17歳)まで
4. 学校年度 3月上旬~12月中旬
5. 学期制 1学期制
6. 授業料 公立は無料。教材などを購入する場合には別途必要。
7. 成人の識字率 98%
8. 初期教育純就学率 100%

1.4) 日本との関係

- ▶ 1921年 外交関係樹立
- ▶ 1952年 外交関係再開

2. 日本語教育機関分布状況

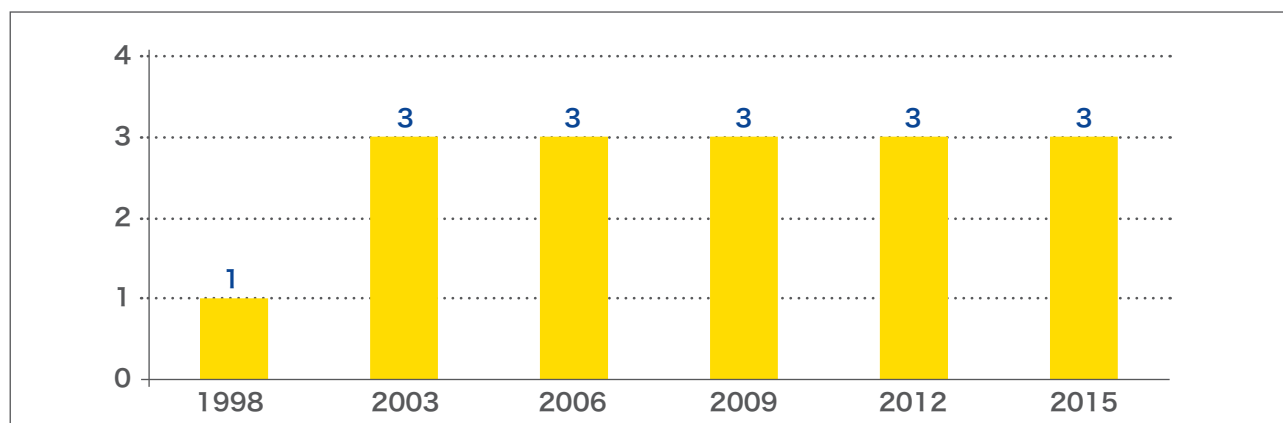


http://d-maps.com/carte.php?num_car=15208&lang=en

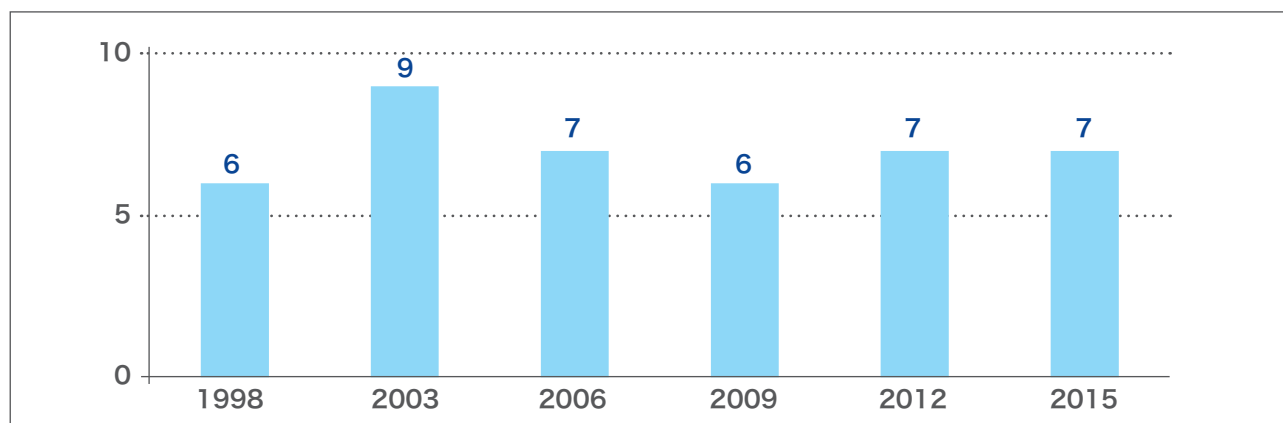
3. 日本語教育事情

3.1) 基本情報

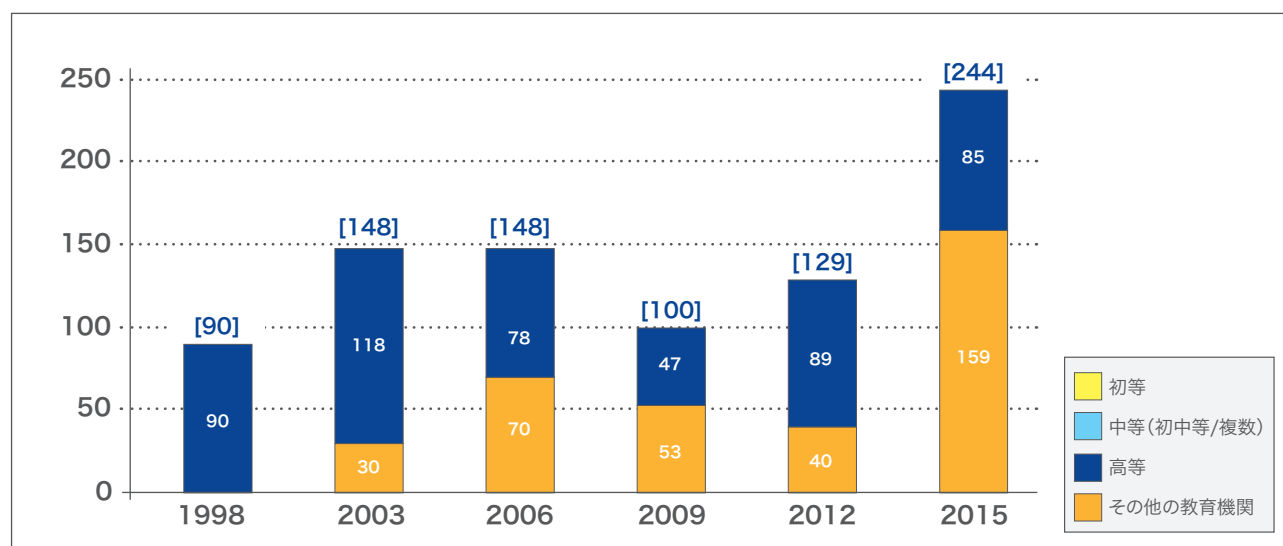
3.1.1) 機関数(1998年～2015年)



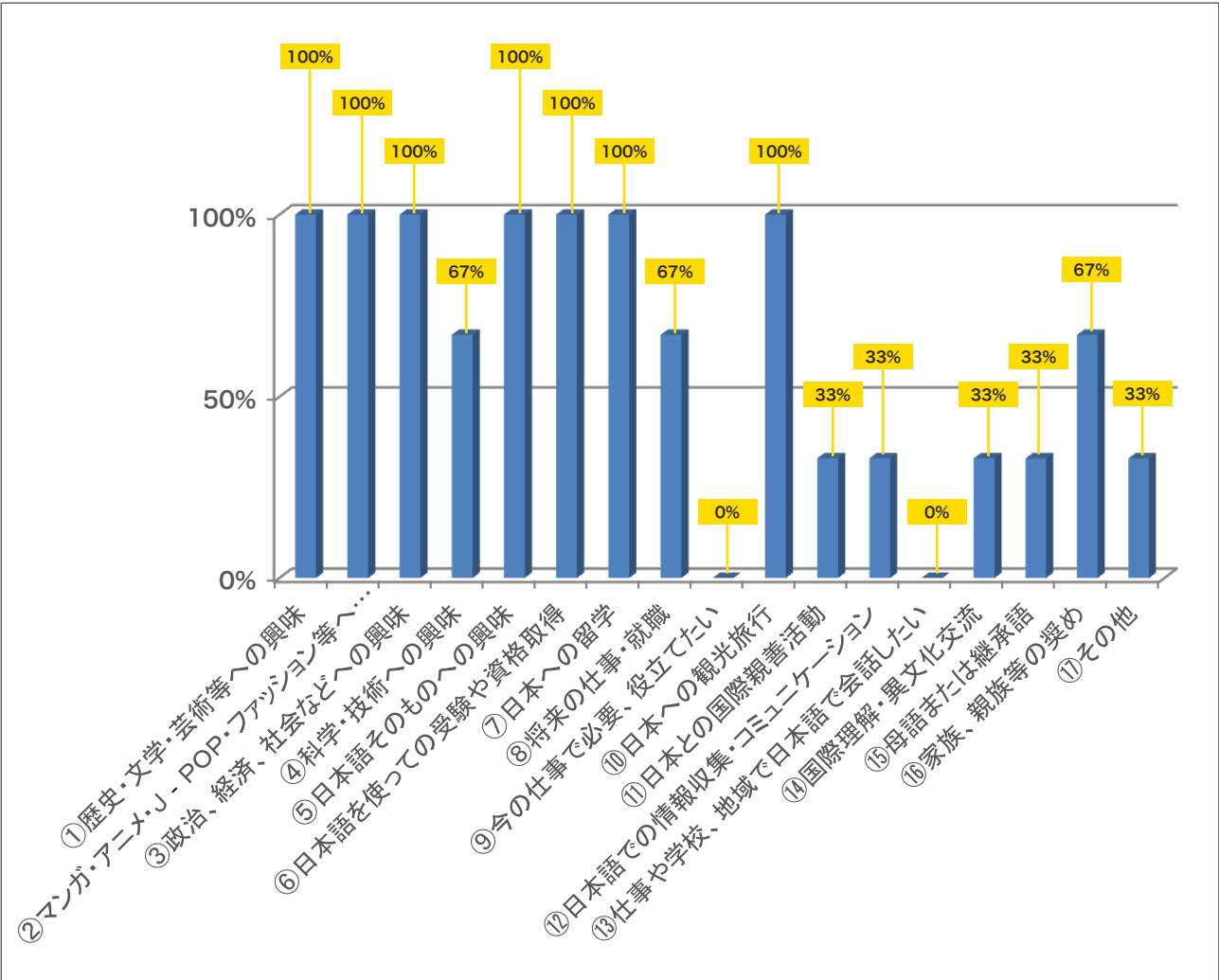
3.1.2) 教師数(1998年～2015年)



3.1.3) 教育段階別学習者数(1998年～2015年)



3.1.4) 日本語学習の目的・理由(2015年)



3.1.5) 日本語教育実施状況(2015年)

項目	スケール	機関数	割合
A 学習者数に対する教師の数	多い	0	0%
	ちょうどよい	0	0%
	少ない	3	100%
	わからない	0	0%
B 十分な日本語運用能力を備えている教師	4分の3以上	1	33%
	2分の1程度	1	33%
	4分の1以下	1	33%
	わからない	0	0%
C 十分な日本語教授の知識・技術を備えている教師	4分の3以上	1	33%
	2分の1程度	1	33%
	4分の1以下	1	33%
	わからない	0	0%
D 日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	2	67%
	2分の1程度	0	0%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	1	33%
E 日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	2	67%
	2分の1程度	0	0%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	1	33%
F 学習者数に対して日本語教材の数	十分である	0	0%
	概ね揃っている	1	33%
	不足している	2	67%
	わからない	0	0%
G 現在使っている教材は学習者に合っているか	非常に合っている	0	0%
	どちらかといえば合っている	2	67%
	不足している	1	33%
	わからない	0	0%
H 現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か	適切である	0	0%
	どちらとも言えない	2	67%
	適切ではない	0	0%
	わからない	1	33%
I 施設(建物・教室)の状況	よい	0	0%
	現状で支障はない	1	33%
	やや支障がある	2	67%
	わからない	0	0%
J 日本語教育設備、機器の状況	よい	0	0%
	現状で支障はない	3	100%
	やや支障がある	0	0%
	わからない	0	0%
K 積極的に授業に取り組む学習者	4分の3以上	1	33%
	2分の1程度	1	33%
	4分の1以下	1	33%
	わからない	0	0%

3.2) 機関情報

3.2.1) 在ウルグアイ日本人会附属日本語学校

西語名: Asociación Japonesa en el Uruguay

住所: Plaza Vidiella 5632 esq. Garzon, Colon, Montevideo

電話: +598-2321-3307

メール: aju@aju.org.uy / secretaria@aju.org.uy

サイト: www.aju.org.uy

概要: 1953年に日系人子弟への日本語教育を目的に、在ウルグアイ日本人会附属の日本語小学校として開校した。1971年に現在のコロン地区に移転。2003年までは日系子弟のみを受講対象者としてきたが、同年方針を改め、一般市民を対象とした日本語講座も開始した。2016年10月時点で、日系子弟を対象とした本科コースには6人、一般成人を対象とした日本語講座には35人の学習者がおり、週2回(1回90分)の授業を受けている。本科コースは適宜教材を使用しているが、成人対象のクラスでは『みんなの日本語』を使用している。隣国アルゼンチンの在亜日本語教育連合会の会員。2016年からさくらネットワークメンバー。

3.2.2) 共和国大学人文科学教育科学学部外国語センター

西語名: Centro de Lenguas Extranjeras de la Facultad de Humanidades y Ciencias de la Educación de la Universidad de la República

住所: Magallanes1577, Montevideo

電話: +595-21-501-300

概要: 2001年に日本ウルグアイ外交関係樹立80周年を記念し、同学部内の外国語センター日本語講座が開講した。ウルグアイ初の高等教育機関の日本語講座。2003年から共和国大学に1人のシニア海外ボランティア(以下、SV)が派遣され、日本語講座を実施運営している。

日本語は選択科目として教えられており、週2回(2コマ)×2時間。通年のコースで、クラスは日本語1～3まであり、3年かけて修了する。教材は主に『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』を使っており、日本語1は1課から14課、日本語2は15課～25課、日本語3は26課～37課。日本語2修了時の到達レベルはN5合格程度。2016年12月時点の学習者数は、69人。

3.2.3) さくら日本語講座

西語名: Curso de Idioma Japonés SAKURA

住所: Cuareim 1451, Montevideo (ORT大学内)

電話: +598-2908-9324

メール: curjpn@hotmail.com

サイト: www.ort.edu.uy/centro-de-idiomas/aprender-japones

概要: もともとウルグアイ人向けの日本語講座として、1964年に日本ウルグアイ文化交流協会主催で開講した。1971年から75年までは在ウルグアイ日本人会附属日本語学校と合併していたが、1975年に地元中学校を借用し、新たに同協会独自に日本語講座を開講。2002年8月に日本ウルグアイ文化協会が運営を引き継ぎ、2003年にORT私立大学内へと移設。その際に、講座名を現在の名称に改めている。講座は、ORT大学学生及び一般市民を対象に開講されている。2016年9月時点の学習者数は21人。

3.2.4) カメハウス

西語名: Kame House

電話: +598-96-311-556

メール: kame.house.uruguay@hotmail.com

サイト: www.facebook.com/kame.house.3939/about/

概要: 2012年にメキシコ人日本語教師が開校。2016年11月時点の学習者は20名(12歳～60歳)。使用教材は『みんなの日本語』、『日本語初歩』、オリジナル教材。

3.2.5) フェニックス学院

西語名: Instituto Fénix

電話: +598-2402-7505

住所: Cnel. Brandzen 1956 apto 701

メール: fenix@fenixinternacional.com

サイト: www.fenixinternacional.com

概要: 日本語だけではなく、中国語、アラビア語、ロシア語、外国人向けスペイン語講座もある。2016年11月時点の学習者数は3名。

3.3) 教師会

「教師会」という組織にはなっていないが、AJUにおいて、ウルグアイ(モンテビデオ)で日本語を教えている教師が集まり、2か月に1度勉強会が実施されている。講師はJICAシニア海外ボランティアが担当している。

3.4) 教師養成機関・講座

3.4.1) 教師資格

日本語教師としての資格要件は特にない。

3.4.2) 養成機関・教師養成

ウルグアイには、日本語教師養成機関、養成講座なし。ただし、アルゼンチンの教連主催の養成講座に参加可(☞第2章3-4-2)。

3.5) 研修・助成利用実績

3.5.1) 教師対象

南米の日本語教師が利用できる教師研修には、JFの公募プログラムにある海外日本語教師研修、CBLJが行っている汎米研修がある(☞第一部3-2, 3-3)。また、日系人であれば、JICAの日系研修も利用可能である。

▶ JF訪日研修参加実績(1989年～2016年)

年	研修	所属(申請当時)
1990	長期研修	在ウルグアイ日本人会

※ 在外邦人研修は現在行われていない。日系人研修は2012年度から開始。

▶ CBLJ汎米日本語教師合同研修会参加実績

なし

その他に日系人の日本語教師が利用できる研修にJICAの日系研修がある。

www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html

3.5.2) 学習者対象

日系非日系を問わず利用できるものには、JF本部事業の「日本語学習者訪日研修」、FJSP主催の「南米中等教育生徒サンパウロ研修(以下、サンパウロ研修)」がある。サンパウロ研修の対象者は、公教育の日本語講座で2年以上の日本語学習経験がある13歳から18歳までの学習者が対象となっている。

日系人であれば、JICAの日系次世代育成研修³⁴、CBLJ主催のふれあいセミナー³⁵(費用は自己負担)などがある。

▶ JF日本語学習者訪日研修(各国成績優秀者)

日本語を学習し、優秀な成績を修めている学習者を2週間日本に招へいし、講義や研修旅行を通じて、日本語および日本文化・社会への理解を深める機会を提供するプログラム。以下は参加実績。

年度	人数	所属先(申請当時)
1997	1人	在ウルグアイ日本人会日本語講座
1998	1人	国立大学科学部
1999	1人	国立大学化学部
2000	1人	国立大学工学部
2001	1人	法律学校
2002	0人	
2003	1人	日本人会日本語学校
2004	1人	共和国大学
2005	1人	不明
2006	1人	共和国大学
2007	0人	
2008	1人	防衛省
2009	0人	
2010	1人	共和国大学
2011	1人	在ウルグアイ日本人会日本語学校
2012	1人	在ウルグアイ日本人会日本語学校
2013	1人	在ウルグアイ日本人会日本語学校
2014	1人	さくら日本語講座
2015	1人	共和国大学
2016	1人	Kame House

※ 参加者は、国際交流基金海外拠点または在外公館の推薦にもとづき、関西国際センターが決定する。ウルグアイでは、大使館による筆記試験と面接により推薦者を選考している。

³⁴ 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。

³⁵ 詳しくはCBLJのサイト(www.cblj.org.br)を参照。

▶ 南米中等教育生徒サンパウロ研修

中等教育段階に対象機関がないため、対象国になっていない。

3.5.3) 機関支援(助成)

2009年度まで海外における日本語教育の分野には「海外日本語講座現地講師謝金助成」、「海外日本語弁論大会助成」、「海外日本語教育ネットワーク形成助成」、「日本語教材寄贈」があったが、2010年度よりこれまでのプログラムを統合した新しい公募助成プログラム「日本語普及活動助成」が実施されるようになった。また、同助成は2017年度より名称が「海外日本語教育機関支援(助成)」に改められた。³⁶

年度	機関	助成
2007	在ウルグアイ日本人会	海外日本語弁論大会助成
2007	ウルグアイ日本文化協会 さくら日本語講座	日本語教材寄贈
2007	ウルグアイ東方共和国大学 人文学部外国語学科 日本語講座	日本語教材寄贈
2008	在ウルグアイ日本人会	海外日本語弁論大会助成
2008	在ウルグアイ日本人会 日本語学校	日本語教材寄贈
2008	ウルグアイ東方共和国大学 人文学部外国語学科 日本語講座	日本語教材寄贈
2009	在ウルグアイ日本人会	海外日本語弁論大会助成
2009	日本・ウルグアイ文化協会	日本語教材寄贈
2010	在ウルグアイ日本人会	学習者奨励活動助成
2011	在ウルグアイ日本人会	学習者奨励活動
2014	在ウルグアイ日本人会	学習者奨励活動助成
2015	在ウルグアイ日本人会	学習者奨励活動助成

³⁶ 参考：「平成29年度公募プログラムガイドライン」www.jpff.go.jp/j/program/dl/guidelines_j_2017.pdf

3.6) 出講・派遣実績

3.6.1) JF専門家

▶ 出講実績

年度	訪問先／研修会名	テーマ／内容
2011	日本語教師研修会 第21回日本語弁論大会	ちゃんと話せる会話指導 読めるって何だ？聞けるって何だ？
2016	『まるごと』活用法講習会	『まるごと 日本のことばと文化』概要、理論、実践

3.6.2) JICAボランティア³⁷

1999年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアはシニア海外ボランティアのみで、総計15人。

	配属先	人数
高等教育	共和国大学	7人
日系日本語学校	在ウルグアイ日本人会	7人
その他	日・ウ文化交流協会	1人

【2017年3月の派遣状況】

配属先	ボランティア	期間
ウルグアイ共和国大学	シニア海外ボランティア	2017年1月~2019年1月
在ウルグアイ日本人会	シニア海外ボランティア	2016年6月~2018年6月

³⁷ JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」

4. 行動計画

4.1) 現状認識

【地理的状況】

広さは日本の約2分の1で、日本語教育機関(3機関)は首都のモンテビデオに集中している(☞2.日本語教育機関分布状況)。地理的にモンテビデオとブエノスアイレスが近いこと、AJUが在亜日本語教育連合会(以下、教連)に加盟していることもあり、隣国アルゼンチンとの関係が深い。

【日本語教育の沿革】

1953年にAJU附属の日本語小学校として日本語学校が開校されたのがウルグアイの日本語教育の始まり。同校は日本人会の日本語教育維持会によって運営されていたため、2003年までは日系子弟のみを受講対象者としてきたが、同年方針を改め、一般市民も対象とした日本語講座となった。推定日系人数が約500人と日系社会の規模は小さいが、今もAJU附属の日本語学校本科コースにおいて日系子弟を対象に日本語が教えられている。ただし、学習者数は6人と少数で、継承日本語教育ではなく日系日本語教育が行われている。現在のウルグアイの日本語教育は外国語としての日本語教育が主流である。文型積み上げ式の教材を使っているところが多いが、課題遂行を重視した『まるごと 日本のことばと文化』の導入を希望する声もある。現在のところ個人教授レベルでのみ使用されている。

【日本語教育の全体的状況】

2015年のJF日本語教育機関調査では、機関数3、教師数7、学習者数244で、その他の教育機関が2機関、高等教育機関が1機関となっている。唯一の高等教育機関である共和国大学の学習者数が約4倍になったことで、総学習者数が約1.9倍増となっている(☞3-1)。JLPTは実施されていないが、受験希望者はブエノスアイレスで受験可能。毎年10月に行われる日本祭りやAJUの文化講座(和太鼓や武道など)など、日本文化へ触れる機会がある。日本の伝統文化・ポップカルチャーの人気もあり、潜在的日本語学習者や地方での独学者も多いのではないかと予想される。

【日本語学習の目的・理由】

目的・理由は、歴史・文学、マンガ・アニメなどのポップカルチャー、政治・経済、日本語そのものへの興味、日本語を使っている受験や資格取得、日本への留学・観光旅行と多岐にわたる(☞3-1-4)。

【日本語教育実施状況】

2015年JF機関調査の結果については、機関数が3機関と少ないため、全体的な状況よりも、機関ごとに抱えている課題が見えると言えよう(☞3-1-5)。また、聞き取り調査では、新人教師／現地人教師の養成が現在の課題として挙げられた。ウルグアイはその他の南米諸国に比べ政治的・経済的に安定しており、経済発展に伴い、数年後にはODA支援が終了すると言われている。共和国大学で行われている日本語講座はJICAシニア海外ボランティア(日本語教育)により実施運営されているが、ウルグアイが先進国(ODA卒業国)リストに入れば、JICAボランティアの派遣ができなくなる恐れがある。JICA支援終了後も継続して日本語講座を開講できるよう現地講師養成および大学への働きかけ、また現地人教師の育成が急務である。日本語学習者の中から、日本語教師となり得る人材を発掘し、教授経験を積んだ後、JF訪日研修(長期研修)などを利用して、日本語運用力および教授力を高めるなど、計画的に教師養成をしていくことが肝要である。

【中核機関／主要機関】

JFにほんごネットワーク(通称さくらネットワーク)のメンバーでもあるAJUを中核機関とする(☞3-2-1)。AJUは長年弁論大会などの日本語教育関連事業を実施しているだけでなく、国内教師を統括する役割も担っており、ウルグアイの日本語教育ネットワークの主体となっている。

【ネットワーク状況】

2015年頃から、AJUとJICAボランティアが協力し、定期的にウルグアイ全体の教師に声かけられ、勉強会が行われるようになった(☞3-3)。機関数が少ないこともあり、風通しの良いネットワークができている。また、地理的にも隣接するアルゼンチンとはAJUが教連の加盟校(下位組織)であることもあり、関係が深い。以前はJF、日本、南米各国とのつながりはあまりなかったが、2016年の南米会議への出席を機に、南米各国の日本語教育関係者とのネットワークが構築されつつある。

【教師養成、教師研修】

教師養成講座や機関はないが、アルゼンチンの教連主催の養成講座や教師研修に参加可能。ただし、交通費・滞在費等の経費を自己負担しなければならないため、一部の教師の利用に限られている。ブラジルで実施されている汎米研修への参加実績はなく、JF訪日研修へは1990年に1人参加のみ(在外邦人研修)(☞3-5-1)。JF訪日研修の利用が少ないのは、期間が長すぎる、また母語話者教師が利用できるものが限られているなどが理由として考えられる。JF助成は適宜利用されている(☞3-5-2)。

【公的派遣実績】

2011年と2017年の教師研修の2回、JF専門家が出講(☞3-6-1)。1999年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアはシニア海外ボランティアのみで、総計15人(☞3-6-2)。現在派遣中のJICAボランティアは2名。

【特記事項(最新動向など)】

現在、AJUを中心に、2017年度のJLPT実施に向け準備中。

4.2) 方針と具体策

(1) 共和国大学における日本語講座の安定的継続に向けた体制を整備する。

- イ) 大使館・JICAが、共和国大学へ独自予算での運営実施の働きかけを行う。
- ロ) 共和国大学が、大使館・JICAと相談しながら、将来的に日本語講座を継続するために、JF訪日研修の利用を通じた現地人講師の育成を行うとともに、JF助成を使用しながら現地講師雇用の体制を整える。

(2) 潜在的学習者が多いと思われるウルグアイ全体における学習者の裾野拡大を図るとともに、その他の教育機関における日本語学習者数の拡大に努める。

- イ) AJU・大使館・JICAが連携し、引き続き日本文化普及関連事業および学習奨励活動を行う。
- ロ) AJUが、JICAと連携のもと、教師研修(日本語教育スタンダード(以下、JFS)、『まるごと』の紹介など、新人研修など)の実施、および新人教師育成に努める。
- ハ) FJSP・MCは、JICA・AJUと連携のもと、AJUの要請に応じる形で、教師研修等への出講、『まるごと』の導入に関する助言等を行う。
- ニ) FJSP・MCは、AJU・大使館・JICAと連携しながら、JF開発のオンラインコンテンツに関する情報提供や、助言等を行う。

(3) 南米各国、日本、FJSP、南米以外のスペイン語圏の国々とのネットワークを構築し、強化する。

- イ) 日本語教師および機関が、教連主催の研修、CBLJ主催の汎米研修、JF訪日研修、JF助成を積極的に利用する。
- ロ) 日本語教師および機関が、南米スペイン語圏日本語教育連絡会議参加やSNSの利用を通じて、ウルグアイのプレゼンスを示すとともに、中南米各国とのネットワークを強化する。